

タイ人技能実習生(第2期生)の受入れ ～外国人介護人材育成支援事業～

本年4月のタイ人技能実習生(第1期生)に続く、第2期生(8名)が9月16日の入国から約1か月の入国後講習を経て、10月24日から県内の介護事業所5か所で実習をスタートさせました。これから3年間、それぞれの介護現場で福井の介護技術を学びます。

なお、今回の実習生のうち6名は、タイに県内の介護福祉士を派遣して教育を行うなど、本県独自に育成した初めての実習生です。現在もタイの高校と連携した実習候補者の教育を進めており、実習生の確保、安定した受入れ体制の強化を図ってまいります。



タイ人技能実習生受入式(令和4年10月5日)



入国後講習(介護)の様子

県内介護事業所の外国人材受入状況について

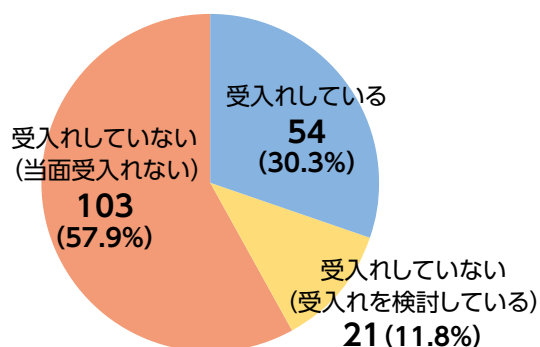
令和4年7～8月実施アンケート調査より

回答のあった事業所では、7月1日現在、外国人介護職員(以下「外国人」という。)を受入れている事業所が約3割(30.3%)という結果でした。なお、介護老人福祉施設(特養)においてはその割合は6割以上(61.5%)となっています。

一方、現在外国人の受入れを行っていない事業所で、「当面は受入れを行わない」とする事業所は6割弱(57.9%・103事業所)でしたが、一方で「介護人材を確保できている」は36.9%にとどまります。人材不足を認めつつ、外国人を受入れることについては、生活指導・監理(46.6%)、経済的負担(27.2%)、職場への影響(26.2%)という点で不安を感じている事業所が多いことがうかがえました。

今回得られた調査結果を基に、外国人受入れに対する不安の解消に努めるなど、本県への外国人介護職員の受入れを進めてまいります。

現在の外国人介護職員を受入れ状況(n=178)



当面受入れしない理由(n=103)

人材が確保できている	38 (36.9%)
人材は不足しているが、外国人受入は生活指導・管理に不安がある	48 (46.6%)
人材は不足しているが、外国人受入は経済的負担に不安がある	28 (27.2%)
人材は不足しているが、外国人受入は職場への影響に不安がある	27 (26.2%)
その他	0

※複数回答であり、割合合計は100%を超える

外国人介護人材受け入れ支援セミナー & 情報交換会

介護職の人材不足が深刻化する中、外国人介護人材の受け入れに対する関心が県内でも高まってきています。

一方で、関係制度や国・県等の支援施策に対する理解は進んでいないほか、心理的なハードルの解消も課題となっています。こうした背景を踏まえ、本会は3月3日、県内福祉施設などの担当者を対象に、受け入れ支援のセミナーと情報交換会を開きました。

本会では、昨年春からタイ人技能実習生を受け入れており、既に14人が県内の福祉施設で実習生として奮闘しています。こうしたセミナーの開催は初めてで、高齢者福祉施設の人事担当者ら約30人が参加しました。

セミナーでは、この取り組みのアドバイザーである宮谷聡さん(株)FIVE GATE代表取締役が、日本の外国人介護人材の制度や課題について解説しました。宮谷さんは、介護に関する4種類の在留資格の違いを示し、技能実習や特定技能(1号)から介

護福祉士国家試験に合格することで永続的な就労が可能になることなどを説明しました。

また「決して安い労働力ではない」「日本人以上に労働関係法令の遵守が求められる」点も指摘。監理団体が適切な支援をしてくれない事例も見られるとして、信頼できる監理団体や相手国の送り出し機関を選定する重要性であることを強調しました。

続く事例発表では、福井市の特別養護老人ホームHOME TOWN コスモスの村崎優施設長と佐飛陽子ユニットリーダーが、取り組み状況を報告。本会のふくい外国人介護職員支援センターを通じて、タイ人技能実習生



宮谷アドバイザーによる解説



HOMETOWN コスモス様による事例発表

2人を受け入れており、実習指導員のフォローのもと、入居者の生活支援のレベルを段階的に高めていることを紹介しました。

特に、2人の実習生が熱心に実習に取り組み、業務の報告や申し送りに支障がないほど日本語も上達し、入居者や職員との信頼関係も築けてきていることを、スライドを交えながら説明しました。受け入れ前は入居者の反応や実習生とのコミュニケーションなどに対する不安があったものの杞憂に終わり、2人ともとても真面目で仕事への意欲もうかがわれるだけでなく、2人を指導することで職員自身の資質向上にもつながっているとの話がありました。

ふくい外国人介護職員支援センターからは、県や県介護福祉士会、タイの教育機関との連携による事業の概要や実績について説明しました。特に入国前から入居後、施設での実習中と、教育・指導内容の連続性を考慮して人材育成に当たり、日本語習得のフォローアップも含め、実習生一人ひとりに目を向けたきめ細かい支援に努めていることを紹介しました。

情報交換は3グループに分かれて行われ、参加者からは受け入れに際しての準備や生活指導などに対する不安の声もきかれましたが、村崎施設長は、支援センターによる事前の研修や定期的なフォローアップにより、大きなトラブルはなかったと説明。外国人実習生の受け入れを決断した理由として、介護職を志望する日本人の若者が少なくなっている中で、将来を見据えて外国人の採用について「自分たちが勉強する必要があると考えた」とのコメントがありました。本会としても、実習生たちが次のステップに進み充実した実習となるよう、サポートしていきます。

タイ人

介護技能実習生

受入施設募集



県社会福祉協議会では、今年秋に入国予定のタイ人介護技能実習生の受け入れ施設を募集しています。詳細はふくい外国人介護職員支援センター0776(24)0086へお問い合わせください。